言語としての日本手話ＩA/ＩＢ			
担当教員	中野聡子・下島恭子(非)	対象年次	1 年次～4 年次
科目分野	【教養教育】人文科学科目群	講義回数	30
授業形式	演習	単位数	1

授業の目的

重度の聴覚障害児・者とのコミュニケーションでは、手話や文字など、音声を介しない視覚的手段が必要となる。本講義では、日本語とは異なる言語体系を持つ日本手話について、CEFR で A1-A2 レベルの言語運用力の習得を目指す。本講義は、「言語としての日本手話 IA」と「言語としての日本手話 IB」と連続した演習授業となっているため、2 つの授業を併せて履修することを条件とする。

授業の到達目標

（厚生労働省手話奉仕員養成カリキュラム入門課程修了相当）

1）日本手話で、CEFR（学習、教授、評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠）で A1-A2 レベルの言語運用力を身につける

CEFR　A1：
馴染みのある日常的な表現や具体的な要求を満たすための基本的な言い回しを理解し、使うことができる。自分や他人を紹介でき、住んでいる場所や知っている人、持っている物などといった個人的な事柄に関しての詳細を尋ねたり答えたりできる。相手がゆっくりわかりやすく話し、援助してくれる場合、簡単なやりとりができる。

CEFR　A2：
ごく基本的な個人情報や家庭情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係のある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。

2）日本手話の基本語彙 750 語を習得する
3）聴覚障害者を始めとする配慮の必要な人々とのコミュニケーションにおける基本姿勢を身につける
4）聴覚障害とその支援に関する基礎知識を身につける

ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

Ａ：諸科学についての基礎的知識と理解　○
Ｂ：論理的・創造的思考力　○
Ｃ：コミュニケーション能力　◎
Ｄ：社会的倫理観・国際性　◎

授業概要

対面による毎回の授業では、手話による言語活動を通じて、日本手話の言語運用能力（文法的能力、社会言語的能力、談話的能力、方略的能力）を高めていく。このほか、オンデマンド授業として、聴覚障害やその支援に関わる基礎知識を学ぶ。

授業スケジュール

＜対面授業＞
「言語としての日本手話」の IA と IB を合わせた授業スケジュールである。
学習進捗状況等に応じて変更することがある。

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　名前/所属/出身県を伝えよう
第 3 回　好きなもの/得意なことを聞こう/伝えよう
第 4 回　家族について聞こう/伝えよう
第 5 回　日本手話の疑問文
第 6 回　私の 1 日
第 7 回　私の将来
第 8 回　さまざまな否定表現
第 9 回　状況を説明しよう
第 10 回 要求を伝えよう
第 11 回 ごめんなさい
第 12 回 比べよう
第 13 回 置いてあるのはどこ？
第 14 回 お店や施設の営業情報
第 15 回 案内する（1）
第 16 回 案内する（2）
第 17 回 買い物をしよう
第 18 回 健康に関する情報を伝えよう

第 19 回 感染症対策について伝えよう
第 20 回 どれにする？
第 21 回 短いストーリーを作ろう
第 22 回 さそいましょう
第 23 回 ろう学校に行って絵本の読み聞かせをしよう（1）
第 24 回 ろう学校に行って絵本の読み聞かせをしよう（2）
第 25 回 企画しよう（1）
第 26 回 企画しよう（2）
第 27 回 ろう者の有名人を紹介しよう（1）
第 28 回 ろう者の有名人を紹介しよう（2）
第 29 回 私が市長になったら（1）
第 30 回 私が市長になったら（2）―タウンミーティング

＜オンデマンド授業＞
「言語としての日本手話」の IA と IB を合わせた授業である。R-LMS で講義動画を視聴したあと、事後課題で 80 点以上とる必要がある。
1. 聴覚障害の基礎知識
2. 聴覚障害の生活

授業時間外学修情報
■「言語としての日本手話 IA・IB」を併せて、毎週宿題がある。
■当該授業日の前日までに、授業資料を提示するので、言語活動で出てきそうな語彙や表現は前もって予習しておくこと。
■対面授業のほかに、オンデマンド授業がある。
※資料には動画データを含むため、共同教育学部リカレント教育センター「遠隔リカレント教育学習管理システム」（R-LMS）で共有する。使い方はイントロダクションで説明する。
※お知らせや連絡も上記 R-LMS で行う。担当教員への相談の際も R-LMS を使用すること。

成績評価基準（授業評価方法）及び 関連するディプロマポリシー
■積極的・主体的な学び（授業への出席、宿題の提出回数、積極的な手話表出練習、講師への質問や話しかけ、他の受講生の手話表出や講師とのやりとりからの学び、自主的な学習等）…60%（B・C・D）
- 出席の確認は毎回授業終了後に提出されたリアクションペーパーで行う。リアクションペーパーの提出期限は授業翌日の昼 12:00 とする。
- 公欠の対象となる病気、忌引、教育実習等については、公欠の手続きを取ること。欠席をする時は理

由にかかわらず、教員に連絡をすること。

・ 宿題の提出回数が３分の２未満の場合は単位が取得できない。

・ オンデマンド授業はすべての回について、事後課題で 80 点以上をとれていなければ単位取得ができない。

■授業におけるタスクや宿題の内容に対する評価（日本手話の言語スキル）…40%（A・C）

・学期末試験の得点を含む（資料・動画の閲覧不可）。

受講条件（履修資格）

■「言語としての日本手話」のＩＡとＩＢを併せて履修すること。